

職業実践専門課程の基本情報について

| 学校名 | 設置認可年月日 | 校長名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|---|------------------|--|--------|---|------|------|-------|---|----|----|------------|---|----|----|---------------|---|---|---|-----------------|---|---|---|
| 大阪こども専門学校 | 平成18年11月24日 | 徳 幸道 | 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島5-7-23 (電話) 06-4806-6800 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設置者名 | 設立認可年月日 | 代表者名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校法人三幸学園 | 昭和60年3月8日 | 屋間 一彦 | 〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-9641 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | 専門士 高度専門士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教育・社会福祉 | 教育・社会福祉専門課程 | 保育科 | 平成26年1月28日告示 — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学科の目的 | 「世の中の困難を希望に変える」をミッションとし、本学科は、学校教育法に基づき、保育の関連分野において活躍する人材を育成するため、必要となれる知識と技術を教授することを目的としている。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定年月日 | 平成28年 2月19日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 講義 | 演習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 62 | 31 | 54 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 昼間 | | 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生徒総定員 | 生徒実員 | 留学生数(生徒実員の内) | 専任教員数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 136人 | 137人 | 0人 | 17人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 兼任教員数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 18人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 総教員数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 35人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学期制度 | ■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日 | 成績評価 | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各学期末に行う試験、レポート、出席等を勘案して行う。成績は5段階評価とし、評価が1・2の科目は成績不良とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長期休み | ■学年始: 4月1日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月25日～1月7日 ■学年末: 3月21日～3月31日 | 卒業・進級条件 | 所定の修業年限以上在籍し、授業科目の成績評価並びに必要な単位を習得した者に対して校長が認定する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者との電話連絡ならびに三者面談を実施し、常に状況の確認を行なう。また、カウンセリングルームを紹介するなど、担任のみならず学校に関わる教職員でサポートしている。 | 課外活動 | ■課外活動の種類 ボランティア活動 地域への子育て支援活動 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職等の状況※2 | ■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 保育・福祉業界、教育業界 ■就職指導内容 就職実習対策の授業内で履歴書や面接指導を行う。またクラス担任と地域別の就職担当が連携し学生をサポートしている。 ■卒業者数 57 人 ■就職希望者数 50 人 ■就職者数 50 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 87.7 % ■その他 ・進学者数: 2人 (平成 29 年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) | 主な学修成果(資格・検定等)※3 | ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育士資格</td> <td>①</td> <td>57</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>硬筆書写技能検定3級</td> <td>③</td> <td>55</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>教諭指導員インストラクター</td> <td>③</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>チャイルドポディセラピスト3級</td> <td>③</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 | 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | 保育士資格 | ① | 57 | 57 | 硬筆書写技能検定3級 | ③ | 55 | 37 | 教諭指導員インストラクター | ③ | 8 | 8 | チャイルドポディセラピスト3級 | ③ | 7 | 7 |
| 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 保育士資格 | ① | 57 | 57 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 硬筆書写技能検定3級 | ③ | 55 | 37 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教諭指導員インストラクター | ③ | 8 | 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| チャイルドポディセラピスト3級 | ③ | 7 | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中途退学の現状 | ■中途退学者 10 名 平成29年4月1日時点において、在学者131名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者121名(平成30年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学校生活不適切、経済的理由等 ■中退防止・中退者支援のための取組 5月より個人面談を実施し、個々の悩みを早期に発見・解決する。欠席が続く生徒については、早い段階で保護者へ電話連絡をし保護者の協力を仰ぐ。入学前と入学後のギャップを埋める為、入学直前の3月に入学予定者向けと保護者向けに学校生活や実習、就職に関する説明会を実施している。 | ■中退率 7.6 % | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経済的支援制度 | ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特待生試験を実施し、本校の特待生として一定基準に達していると判定された方を特待生として認定し授業料を減免している。 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第三者による学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 当該学科のホームページURL | http://www.sanko.ac.jp/osaka-child | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等とは、卒業年度中に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

園・施設等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、実践的かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会構成員は、大阪こども専門学校と園・施設の外部役員から成るものとし、審議を通じて示された園・施設等の要請その他の情報・意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|-------|-------------------|-------------------------|----|
| 加藤 千鶴 | クオリスキッズ三国本町保育園 園長 | 平成29年4月1日 ～平成31年3月3日 | ③ |
| 勝部 月子 | 小田原短期大学 特任教授 | 平成29年4月1日 ～平成31年3月3日 | ② |

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (5月、2月)

(開催日時(実績))

平成29年 6月 1日 13:00～15:00

平成30年 2月19日 10:00～11:30

平成30年 5月29日 14:30～16:00

平成31年 2月 (予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ・学生がより充実した実習を行う為、地域ボランティアの告知を積極的に行い、子どもと触れ合う機会を増やした。
- ・実習・就職連絡会を開催し、複数の施設長と当校実習担当者が意見交換を行い、実習指導のシラバスに反映させた。
- ・卒業生支援として長期就労の為のサポートの一環で、卒業生を対象とした研修会を開催した。
- ・平成31年度教育課程の変更に向け、教養科目・実習指導・手遊び・ピアノの教授方法(シラバス)を検討している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校のカリキュラムの一環として園・施設等において、実習を通して保育の現場及び保育業務の実際を体験し、学内における講義及び演習で学んだ理論や技術の中から自己の不備不足を把握し、実習後の学習に意欲を持たせるものとする。その際、特に考慮すべき点として以下のような目的を有する。

- ① 学校で履修した知識、技術を保育現場で確認するとともに、保育職志望者としての自分自身を問い直す機会とする。
- ② 児童福祉施設や職員が果たす社会的役割および職務内容を理解し、実際の保育が職員全員の協働と責任によって進められていることを学ぶ。
- ③ 個人及び集団としての児童に保育者として関わり、自己の保育者としての自覚をさらに高める。
- ④ 自らの子ども観、養育観、現代の家庭ならびに社会についての考え方を深め、保育者となるための自覚を持つ。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

保育者としての基本的知識及び保育内容全般等の修得を目的に2週間の保育実習Ⅰ(保育所)、保育実習Ⅰ(保育所以外の施設)、保育実習ⅡまたはⅢ(保育所もしくは施設のいずれか)の3回を委託する。各実習期間内に、以下のステップを踏みながら実習内容を深めていき、実習生(生徒)は実習期間中毎日実習日誌を指導保育者に提出し、1日の評価と翌日への課題をフィードバックしていただく。

当校教員は、実習の前後に電話にて実習生状況や実習内容について意見交換を行い、実習期間中に必ず1度は実習施設に足を運び、直接実習生の様子を確認すると共に指導保育者より生徒の様子や課題の報告をうける。また、実習終了後には施設長(園長)と指導保育者によって実習生に対する評価表(「態度・意欲」、「こども理解」、「保育活動」、「性格適正」の4項目10視点を5段階で評価)を記入していただき、学内での事後指導に役立てる。

① 見学実習、観察実習

保育所では、実習先での子ども達の生活の姿を全体的に捉え、子ども一人ひとりの成長の理解を深めると共に保育者の仕事を知る。施設においては、主に指導保育者の保育活動や、入所者の日常の生活状況を把握する。

② 参加実習

保育所では、指導保育者の補助などの形で保育活動に参加する。実際に子ども達に接する中で、更なる理解を深めると同時に担当保育者の仕事を知る。施設においては、指導保育者の補助などの形で養護や療育に参加する。

③ 部分実習

1日のある部分的な活動をクラス担任に代わり実習生が責任を持って保育を行う。またその際子ども達の言動を予想した計画的な指導案を作成する。

④ 責任実習

1日の保育全体をクラス担任に代わり実習生が責任を持って保育を行う。またその際子ども達の言動を予想した計画的な指導案を作成する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 |
|-----------------|--|---|
| 保育実践Ⅰ | 地域社会において福祉・教育・保育の領域に関わるボランティア活動への参加を通し、多様な能力の育成、社会性の涵養、知識と技術の習得などを旨とする。ボランティア活動への心構えを築き、活動全般の振り返りも行う。 | 社会福祉法人 山善福祉会 社会福祉法人 照治福祉会 社会福祉法人 天王福祉会 他 |
| 保育実習Ⅰ(保育所) | 保育所の役割と機能、保育内容と保育環境、保育の計画・観察・記録、専門職としての保育士の役割と職業倫理を学び、子どもへの理解を深める。 | 社会福祉法人 山善福祉会 社会福祉法人 四恩学園 社会福祉法人 若葉会 他 |
| 保育実習Ⅰ(保育所以外の施設) | 施設の役割と機能、養護内容と生活環境、支援計画と記録、専門職としての保育士の役割と倫理を学び、子どもへの理解を深める。 | 社会福祉法人 天王福祉会 社会福祉法人 高津学園 社会福祉法人 都島友の会 他 |
| 保育実習Ⅱ | 保育実習Ⅰでの実践を通して学んだ技術と、理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術を修得することを目的とし、家庭と地域の生活実態にふれ、子育てを支援するために必要とされる能力と、こども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養い、福祉の視点を持った保育士養成を目指し保育所での実習を行う。 | 社会福祉法人 山善福祉会 社会福祉法人 四恩学園 社会福祉法人 若葉会 他 |
| 保育実習Ⅲ | 保育実習Ⅰでの実践を通して学んだ技術と、理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術を修得することを目的とし、家庭と地域の生活実態にふれ、子育てを支援するために必要とされる能力と、こども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養い、福祉の視点を持った保育士養成を目指し施設での実習を行う。 | 社会福祉法人 天王福祉会 社会福祉法人 高津学園 社会福祉法人 都島友の会 他 |

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

実践的かつ専門的な職業教育を実施し、明日の保育業界を担う「皆から信頼・感謝され、こどもの未来を育む人材」を養成するためには、教職員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。そのために、以下のとおり教員研修の環境を整える。

- ・企業等から講師を招いた実践的かつ専門的な知識・技術・技能を修得するための研修
- ・指導力の修得・向上のための研修

なお、当該研修等を計画的に教員に受講させるにあたり諸規定に定められている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

1) 研修名「小田原短期大学の保育者教育について」(小田原短期大学 学長 吉田 眞里 様)

期間:平成30年8月23日(金) 対象:実習指導担当・担任・事務職員全員

内容:60年以上保育者養成に携わってきた小田原短期大学が大切にしている保育者教育についてご教授頂いた。

2) 研修名「実習巡回の対応・生徒指導について」(アズアカデミーシェアリング 代表 桑原 あずさ 様)

期間:平成30年8月31日(金) 対象:実習指導担当・専任・担任教職員全員

内容:養成校の教職員として実習巡回時のふさわしい対応についてご教授頂いた。

② 指導力の修得・向上のための研修等

1) 研修名「新卒1年目研修」(株式会社 ウィルシード様)

期間:平成30年3月8日(木) 対象:新入教員

内容:社会人スキル(主体性・行動力・報告連絡相談・ビジネスマナー)を身に付ける。

2) 研修名「組織・クラス運営の為に知っておきたい5つの法則」(株式会社アビリティトレーニング 木下 晴弘 様)

期間:平成30年3月27日(火) 対象:全教職員

内容:クラス運営・生徒指導・授業を行う上で、肝要となるポイントを具体的にご教授頂いた。

3) 研修名「メンタルヘルス研修」(T-PEC 様)

期間:平成30年8月23日(木) 対象:教務主任

内容:ストレスとメンタルヘルス疾患の相関関係を学び傾聴の仕方など具体的な対処方法を学ぶ。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

1) 研修名「保育業界の現状と求められる人材」(キッズ大陸園長 大川 正裕 様)

期間:平成31年2月2日(土)(予定) 対象:実習指導担当・担任教員

内容:保育業界の現状と求められる人材について教授頂く。

2) 研修名「児童福祉施設の現状」(未定)

期間:2019年8月下旬(予定) 対象:全教職員

内容:児童福祉施設の現状を把握し、実社会にて必要とされる人材育成に役立てる。

② 指導力の修得・向上のための研修等

1) 研修名「クラスマネジメント研修」(株式会社 ウィルシード様)

期間:平成30年10月22日(月)・23日(月) 対象:入社3年目教員

内容:【集団をまとめる力】【チーム力】の基本となる、自分の想いを相手に伝える力・正しく情報を伝える力を養う。

2) 研修名「リーダーシップ開発研修～目標設定力・意志決定力～」(株式会社 ウィルシード様)

期間:平成30年11月1日(木)2日(金) 対象:入社4年目教員

内容:目標の実現に向けて論理的にモノゴトを判断・決定できる力を養う。

3) 研修名「新卒1年目振り返り研修」(株式会社 ウィルシード様)

期間:平成30年11月5日(月)・6日(火) 対象:入社1年目教員

内容:仕事をスムーズに進めていくための捉え方・仕事の進め方を学ぶ。

4) 研修名「組織・クラス運営のポイント」(株式会社アビリティトレーニング 木下 晴弘 様)

期間:平成31年3月20日(水) 対象:全教職員

内容:クラス運営・生徒指導を行う上で、肝要となるポイントを学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、保育分野の業界関係者及び卒業生、高等学校の教員等と共に、学校関係者評価委員会を設置して、当該専門分野における実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動および学校運営の改善の参考とする。

学校関係者評価は、「私立専門学校等評価研究機構 専門学校等評価基準」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。また、評価結果は学校のホームページで公表する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|----------------|----------------|
| (1) 教育理念・目標 | (1) 教育理念・目標 |
| (2) 学校運営 | (2) 学校運営 |
| (3) 教育活動 | (3) 教育活動 |
| (4) 学修成果 | (4) 学修成果 |
| (5) 学生支援 | (5) 学生支援 |
| (6) 教育環境 | (6) 教育環境 |
| (7) 学生の受入れ募集 | (7) 学生の受入れ募集 |
| (8) 財務 | (8) 財務 |
| (9) 法令等の遵守 | (9) 法令等の遵守 |
| (10) 社会貢献・地域貢献 | (10) 社会貢献・地域貢献 |
| (11) 国際交流 | |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

「(3)教育活動・(4)学修成果」

関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携を強化、生徒の就職先のミスマッチを減少する為にも、学校独自で園長連絡会の開催を実施した。

「(5)学生支援」

同窓会linkや卒業生対象のイベント情報を在学中に告知することで認知度を向上させ、卒業生支援の強化を図る。

⇒平成29年度は情報交換会のみで開催であったが、平成30年度は卒業生向けの研修会も開催した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|-------|--------------------|-------------------------|----------------|
| 高橋 美穂 | 飛鳥未来高等学校 大阪キャンパス | 平成29年4月1日 ～平成31年3月3日 | 高等学校 キャンパス長 |
| 菅井 克弥 | ぼけっとランドチャイルドケア事業本部 | 平成30年4月1日 ～平成31年3月3日 | 企業委員 |
| 野崎 紗苗 | ぼけっとランド赤羽保育園 | 平成30年4月1日 ～平成31年3月3日 | 企業委員 ・卒業生 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL:http://www.sanko.ac.jp/osaka-child/pdf/kankeisyahyouka_osaka.pdf

公表時期:平成30年7月

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則って情報提供を実施することで、学校の指導方針や課題への対応方法等に関し、教職員・生徒間、学校・家庭間の共通理解が深まり、教育活動の活性化や学校運営の円滑化につなげること。また、入学希望者やその保護者に対し、進路選択に当たっての有用な情報を提供するとともに、一人ひとりの能力・適性にあった望ましい進路の実現に資すること。そして、キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習・就職指導等企業等との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげることを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|--------------------|-----------------------|
| (1) 学校の概要、目標及び計画 | ●三幸学園について |
| (2) 各学科等の教育 | ●三幸学園の教育 ●学科紹介 ●資格・就職 |
| (3) 教職員 | ●講師紹介 |
| (4) キャリア教育・実践的職業教育 | ●実習・実技等 ●就職支援 |
| (5) 様々な教育活動・教育環境 | ●施設紹介 ●地域支援、子育て支援 |
| (6) 学生の生活支援 | ●サポートシステム ●学生寮・一人暮らし |
| (7) 学生納付金・修学支援 | ●募集学科・学費 ●学費サポート制度 |
| (8) 学校の財務 | ●監事監査報告書 ●資金収支計算書 |
| (9) 学校評価 | ●学校の評価 |
| (10) 国際連携の状況 | |
| (11) その他 | |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://www.sanko.ac.jp/disclosure/>

授業科目等の概要

| (教育・社会福祉専門課程保育科) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|------------------|------------------|--------|---|-----------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | 情報処理 | 保育士として、また社会人として必要な基本的な文書作成や図表作成のためのパソコンでの文書入力、表計算知識を習得し、実社会において、有為な人材として活躍できる技能の習得を目的とする。 | 1 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | |
| ○ | | | 体育（実技） | 健康維持と体力増進を目的とするが、スポーツの持つ娯楽性に対する感受性を高めることを主眼として行い、有酸素運動、レクリエーションゲームなどを中心に講義を進める。 | 1 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | ペン字 | 保育士として、また社会人として必要な基本的な文字・文章の書き方を習得し、ペン字のスキルを総合的に学習し、実社会において、有為な人材として活躍できる技能の習得を目的とする。 | 1 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 英語 | 保育現場での日常や行事等で必要とされる英語を学習する。将来、保育現場で英語での対応が必要になった時に必要な単語力・基礎的な会話力を養成し、英語の常識や他国の保育事情にも目を向ける。 | 1 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 基礎学力演習 | 次の学習内容を通じて、保育者に必要な基礎学力と常識や良識を身につける。①基礎的な漢字や敬語、保育用語の使い方②レポート・感想文・実習園への手紙の書き方③TPOに応じた挨拶等の方法 | 1 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 日本国憲法 | 憲法は国家の基本法である。即ち国法体系の基本秩序を明示する。「生命・自由・幸福の追求権」の人間存在（実在）にいかにか豊かな人権保障の確保が不可欠であるかについて理論的に、かつ具体的事例を通じて重層的に論述する。 | 2 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 体育（講義） | 運動や栄養など、健康に関わるエピソードを通して、健康を総合的にとらえ、個人個人が自分にあった健康処方・運動処方をデザインできるようになることを目的として行う。 | 2 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 保育原理 | 保育の意義、保育所保育指針における保育の基本、保育の目標と方法、保育の思想と歴史の変遷について理解し、保育の現状と課題について考察する。 | 1 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 教育原理 | 教育の意義・目的及び児童福祉等とのかかわり、教育の思想と歴史の変遷や教育に関する基礎的な理論、教育の制度や実践、生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。 | 1 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(単位) | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (教育・社会福祉専門課程保育科) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|------------------|------------------|----------|---|-----------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | 教育制度論 | 学校制度をはじめとする教育制度の仕組みや社会的役割に関する理解を深め、それらの現状や改革の動向についても考察していく。これらの学習をとおして、現代日本における公教育制度とそれに関わる法令などを理解し、教育制度改革の動向についての理解を深める。 | 1 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 児童家庭福祉 | 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷、児童家庭福祉と保育との関連性および児童の人権、児童家庭福祉の制度と実施体系、児童家庭福祉の現状と課題、児童家庭福祉の動向と展望について理解する。 | 1 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 社会福祉 | 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、社会福祉と児童福祉および児童の人権や家庭支援との関連性、社会福祉の制度や実施体系、社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組み、社会福祉の動向と課題について理解する。 | 1 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 保育者論 | 保育者の役割と倫理、保育士の制度的な位置づけ、保育士の専門性、保育者の協働、保育者の専門職的成長について理解する。 | 1 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 相談援助 | 相談援助の概要、相談援助の方法と技術、相談援助の具体的展開を理解し、保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。 | 2 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 社会的養護 | 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷、社会的養護と児童福祉の関連性および児童の権利擁護、社会的養護の制度や実施体系、社会的養護における児童の人権擁護および自立支援、社会的養護の現状と課題について理解する。 | 2 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 保育の心理学Ⅰ | 保育実践にかかわる心理学の知識、こどもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもが人との相互的にかわりを通して発達していくことや生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育との関連を考察する。 | 1 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 保育の心理学Ⅱ | 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深め、生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解し、保育における発達援助について学ぶ。 | 2 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 子どもの食と栄養 | 健康な生活を基本として食生活の意義や栄養に関する基本的知識、子どもの発育・発達と食生活の関連、食育の基本と内容、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 | 1 | 30 | 2 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(単位) | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (教育・社会福祉専門課程保育科) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|------------------|------------------|------------|---|-----------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | 子どもの保健Ⅰ | 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義、身体発育や生理機能および運動機能ならびに精神機能の発達と保健、子どもの疾病とその予防法および適切な対応、子どもの精神保健とその課題、保育における環境及び衛生管理並びに安全管理などについて理解する。 | 1 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 子どもの保健Ⅱ | 子どもの健康および安全に係る保健活動の計画及び評価、子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境、子どもの疾病とその予防及び適切な対応、救急時の対応や事故防止と安全管理、現代社会における心の健康問題や地域保健活動について理解する。 | 2 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 家庭支援論 | 家庭の意義とその機能、子育て家庭を取り巻く社会的状況、子育て家庭の支援体制、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。 | 2 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| | ○ | | 幼児理解の理論と方法 | 幼児を理解する方法とその視点や保育者の役割などについて学ぶ。幼児期の発達過程を理解し、一人ひとりの子どもの発達の課題に必要な援助を導き出すことのできる基礎的知識な知識を習得する。また、日常的な事例をもとに子どもの行為の意味を考える力を身につける。 | 2 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| | | ○ | 教育相談 | 現代社会では、家庭や友達の輪や学校の中で、自己不全感を感じ、うまく適応できない子どもたちが増えている。そういった子どもたちを支援し、自ら生きる力、より健全に成長していく力を取り戻して、社会の中で生き生きと活躍してもらう為のかかわり方を学ぶ | 2 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 人間関係 | 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を発展していくための知識・技術・判断力を習得する。そして、子どもの発達を、「人間関係」領域の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。 | 1 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 環境 | 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を発展していくための知識・技術・判断力を習得する。そして、子どもの発達を、「環境」領域の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。 | 1 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 言葉 | 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を発展していくための知識・技術・判断力を習得する。そして、子どもの発達を、「言葉」領域の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。 | 1 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 表現 | 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を発展していくための知識・技術・判断力を習得する。そして、子どもの発達を、「表現」領域の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。 | 1 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(単位) | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (教育・社会福祉専門課程保育科) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|------------------|------------------|----------|---|-----------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | 社会的養護内容 | 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理および責務、施設養護及び他の社会的養護の実際、支援計画と内容、社会的養護にかかわる専門的技術、社会的養護の今後の課題と展望について理解する。 | 1 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | | |
| | ○ | | 教育の方法と技術 | 様々な保育形態を知り、保育をデザインする力を身に付けることを目標とし、情報リテラシーや教材開発の方法を身につけることをテーマとする。子どもたちが興味を持ち、意欲的に取り組む中で実感を伴った理解をするには、どのような要素が必要かを考察する。 | 1 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | | |
| ○ | | | 乳児保育 | 乳児保育の理念と歴史の変遷および役割、保育所・乳児院等における乳児保育の現状と課題、3歳未満児の発育・発達と保育内容、乳児保育の実際、乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。 | 1 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | |
| ○ | | | 保育課程論 | 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価、保育課程の編成と指導計画の作成、計画・実践・省察・評価・改善の過程について理解する。 | 2 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | |
| ○ | | | 保育内容総論 | 保育の基本と保育内容、保育内容の歴史の変遷、保育内容と子ども理解とのかかわり、保育の基本を踏まえた保育内容の展開、保育の多様な展開について理解する。 | 2 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | | |
| ○ | | | 健康 | 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を発展していくための知識・技術・判断力を習得する。そして、子どもの発達を、「健康」領域の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。 | 2 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | | |
| | ○ | | 表現総合演習 | 保育内容指導法及び、保育表現技術に関する科目を統合し、表現活動を総合する学びとして、保育者としての表現力を高め、保育の実践につながるように習得する。 | 2 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | | |
| ○ | | | 障がい児保育 | 障がい児保育を支える理念や歴史の変遷、様々な障がい、障がい児保育の実際、家庭及び関係機関との連携、障がいのある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。 | 2 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | |
| ○ | | | 保育相談支援 | 保育相談支援の意義と原則、保護者支援の基本、保育相談支援の実際、児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。 | 2 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | | |
| 合計 | | | 科目 | | 単位時間(単位) | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (教育・社会福祉専門課程保育科) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|------------------|------------------|------------------|---|-----------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | 造形表現 | 子どもの発達と造形表現に関する知識と技術、身近な自然やものの色や形・感触やイメージ等に親しむ経験と保育環境、子どもの経験や様々な表現活動と造形表現とを結びつける遊びの展開について学ぶ。 | 1 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | 言語表現 | 子どもの発達と絵本・紙芝居・人形劇・ストーリーテリング等に関する知識と技術、子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育架橋、子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開について学ぶ。 | 1 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | 音楽Ⅰ | 子どもの発達と音楽表現に関する知識と技術、身近な自然やものの音や音色・人の声や音楽等に親しむ経験と保育環境、子どもの経験や様々な表現活動と音楽表現とを結びつける遊びの展開について学ぶ。 | 1 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| | ○ | | 音楽Ⅱ（理論・声楽） | 幼児教育に携わる保育者に必要な音楽能力を習得するために、楽典の教科書を中心にしながら、歌唱及び器楽演奏に伴う譜読力や表現方法を学習していく。 | 1 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | 身体表現（幼児体育・リトミック） | 子どもの発達と運動機能や身体表現に関する知識と技術、見立てやごっこ遊び、劇遊び、運動遊び等にみる子どもの経験と保育環境、子どもの経験や様々な表現活動と身体表現とを結びつける遊びの展開について学ぶ。 | 2 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| | ○ | | 音楽Ⅲ | 幼児教育の音楽指導上に必要な鍵盤楽器（ピアノ）による伴奏法と簡単な即興演奏を身に付ける。コードネームと和音記号を理解し、子どもの歌伴奏に必要な鍵盤和声を習得する。 | 2 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| | ○ | | 音楽Ⅳ | 楽器演奏の基本的技術を確認しながら、合奏技能を高めることを目標とする。授業内では、様々な合奏形態について論じるが、実践においては保育現場における実情を考え、主に教育用楽器（カスタネット・太鼓など）を用いて合奏を試みる。 | 2 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| | ○ | | こどものうた | 幼児教育での音楽が通津に対応するにあたり、最も必要な歌唱を習得していく。そのために呼吸法及び歌唱時の表現方法を学習していく。 | 2 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| | ○ | | 保育実践Ⅰ（ボランティア） | 地域社会において福祉・教育・保育の領域に関わるボランティア活動への参加を通し、多様な能力の育成、社会性の涵養、知識と技術の習得などを旨とする。ボランティア活動への心構えを築き、活動全般の振り返りも行う。 | 1 | 60 | 2 | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| 合計 | | | 科目 | | 単位時間(単位) | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (教育・社会福祉専門課程保育科) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|------|------|---------------------|--|-----------|--------------|-------------|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 保育実践Ⅱ | 保育表現技術に関する科目を統合し、表現活動を総合する学びとして、保育者としての表現力を高め、保育の実践につながるように習得する。 | 2 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | | |
| ○ | | | 保育実践演習 | 保育現場の実態に対応できる「実践的指導力」をもった保育士を養成する為に、少子高齢化や虐待及びそれに伴う世代間連鎖など現代的課題について現状分析や考察や検討を行う。また、学生自身が、調査・検討・発表などを主体的に取り組み、問題解決の為の対応や判断方法等について学びを深める。 | 2 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | | |
| ○ | | | 保育実習Ⅰ (保育所・施設) | 保育所の役割と機能を理解し、保育所保育指針への理解をもとに、保育所の生活について具体的に学ぶ。さらに、観察や記録を通して子どもへの理解を深め、保育の計画に基づく保育内容や保育環境、健康と安全への配慮を学ぶ。さらに、保育課程と指導計画を理解し、省察・自己評価を行う。施設実習では、施設の一日の流れ、施設の役割と機能を具体的に学び、観察と記録を通して子どもを理解する。支援方法や支援計画を理解し、記録に基づいて省察・自己評価をする。専門職としての保育士の役割と倫理を自覚する。 | 2 | 180 | 4 | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| ○ | | | 保育実習指導Ⅰ (保育所・施設) | 保育実習の意義・目的を理解、内容を理解し、自らの課題を明確にするとともに、保育所における子どもの人権と最善の利益やプライバシーの保護、守秘義務等について理解する。また、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について学び、実習の事前・事後指導を通して、総括と自己評価を行い、自分の課題や今後の学習目標を自覚する。 | 2 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | | |
| ○ | | | 保育実習ⅡまたはⅢ | 保育実習Ⅰでの実践を通して学んだ技術と、理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術を修得することを目的とし、家庭と地域の生活実態にふれ、子育てを支援する為に必要とされる能力と、こども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養い、福祉の視点を持った保育士養成を目指し保育所・施設での実習を行なう。 | 2 | 90 | 2 | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| ○ | | | 保育実習指導ⅡまたはⅢ | 保育実習の意義と目的を理解し、子どもの最善の利益を考慮した保育を総合的に理解する。これまでの学びや関連性を踏まえ、保育実践力を培うとともに、実践や事例を通して保育の観察、記録、自己評価等を基にした保育の改善について学ぶ。また、保育士の専門性と職業倫理について理解する。さらに実習の事後指導により実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 | 2 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | | |
| | | ○ | 未来デザインプログラムⅠ | 社会人基礎力の向上を目的として、フランクリンコピー著書の「7つの習慣」をベースに、成功に近づく考え方や行動習慣を身につけさせていく。 | 1 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | | |
| | | ○ | 未来デザインプログラムⅡ | 社会人基礎力の向上を目的として、フランクリンコピー著書の「7つの習慣」をベースに、成功に近づく考え方や行動習慣を身につけさせていく。 | 2 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | | | |
| | | ○ | 実習就職対策Ⅰ | 1年次は、主に実習に比重を置き授業を進めていく。主な内容として、1年生で行う観察実習、2年生で行う保育実習に向けての基本知識の習得。 | 1 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(単位) | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (教育・社会福祉専門課程保育科) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|------------------|------------------|------------|---|-----------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| | | ○ | 実習就職対策Ⅱ | 2年次では、就職活動に向けての履歴書・自己PR文の書き方や面接練習など、実習と連動させて進めていく。 | 2 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | | |
| | | ○ | ホームルームⅠ | 学校生活を送る上での諸連絡、諸伝達を行い、クラス内での情報の共有を図る。また、生活面における生徒指導など、学校生活に関わる諸注意事項を徹底させることにより集団生活における学校全体のモラルの向上を目指す。 | 1 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | | |
| | | ○ | ホームルームⅡ | 学校生活を送る上での諸連絡、諸伝達を行い、クラス内での情報の共有を図る。また、生活面における生徒指導など、学校生活に関わる諸注意事項を徹底させることにより集団生活における学校全体のモラルの向上を目指す。 | 1 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | | |
| | | ○ | 教養文化の学習(A) | 豊かに生きる力を育むことを目的とした総合科目である。スポーツ・医療事務・介護・美容・調理・製菓など、様々な分野に触れることで感性を磨いていく。 | 1 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | | |
| | | ○ | 教養文化の学習(B) | 豊かに生きる力を育むことを目的とした総合科目である。スポーツ・医療事務・介護・美容・調理・製菓など、様々な分野に触れることで感性を磨いていく。 | 1 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | 59科目 | 2280単位時間(| | | | | 94単位) | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|---|----------|-----|
| 所定の修業年限以上在学し、成績評価並びに必要な単位を修得した者に対して校長が課程修了の認定を行う。 (留意事項) | 1学年の学期区分 | 2期 |
| | 1学期の授業期間 | 15週 |

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。